

令和4年度 自己評価結果の学校関係者評価委員会への報告（第4回）

学校法人東筑紫学園 認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園

1、 本園の教育目標

「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づき、本学の建学の精神「よいこのころは ちくしのころ」を育む

- (1)父母に感謝し、祖先を崇め天地の恵みに感謝する子どもに育てる。〔愛〕
- (2)健康で逞しくしかも集団の中にあつてのびのびとした子どもに育てる。〔勇気〕〔親和〕
- (3)生活に必要な能力や態度などを身につけ、感性豊かな子どもに育てる。〔知性〕

2、 本年度の重点目標

- 健康な体づくりへの取り組み
- 園児の安全な生活の保障

3、 本年度の評価項目の達成状況及び取り組み状況

<重点目標：健康な体づくりへの取り組み>

評価 A：達成している B：概ね達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

	基準	取組結果	評価結果	基準	成果結果	評価結果	評価結果についての教員などの主な意見	次年度へ向けての改善策	評価
① 園児の生活 習慣を見直し 改善する	1	手洗いの声掛けをしたり、ポスターの掲示や絵本・歌など教材を工夫したりする。	3.1	1	(満3歳児以下) 自分の体がきれいになる心地良さがわかるようになった。 (年少組以上) ハンカチやティッシュなどの準備を進んで行うようになった。	3.2	<満3歳児以下> ○手洗い・排泄に関する絵本を準備したり、手洗いや着替えの仕方を個別に丁寧に知らせたりした。 ○うがいをするときに遊び着を濡らすため、手作りポスターを掲示すると園児自ら見ながらすすんで行うようになった。また、各家庭での排泄や着替えの状況を聞きそれを参考に行っていた。 ○おむつからパンツへの移行やスプーンの使い方は家庭との連携や日々の積み重ねでできるようになったことがたくさんあった。 <年少組以上> ○毎月のたよりで保護者に投げかけたり、手洗いのポスターを掲示したりすることで習慣づいてきた面もあるが、保護者と健康な体づくりについて会話する機会はあまりなかった。 ○園や大学の畑で季節の野菜を育てたり(植える・水やり・草抜き・収穫)、給食で食べたりすることで食に興味をもつことができた。 ○登降園時に門で教師から保護者と園児に積極的に挨拶をすることで笑顔で挨拶が返ってくるようになった。	○全職員が意識をもって毎日の門立ちや受け入れの際に保護者に積極的な挨拶をはじめコミュニケーションをもつことで保護者との信頼関係に変化がみられた。園なりに少しずつではあるが改善し、たよりのホームページなどで園や園児の様子を伝えている。そのことにより直接触れ合う機会が少ない保護者にもっと園のことを知りたいと関心をもっていただけたので次年度もこのような取り組みを続けていきたい。 ○園の取り組みとして「手作りポスター」や「野菜の栽培」などを通して、基本的な生活習慣が確立できるように一人一人の園児の発達に合わせた援助を行うことができた。家庭との連携については年少組以上の学年やクラスは健康な体づくりに関して、園児が楽しかった体験を直接保護者に伝えるきっかけにもなったようである。楽しかったことを嬉しそうに報告する子どもの姿は、保護者にとっても嬉しく、園に対する信頼につながることを改めて意識し、次年度につなげていく。	A
	1	畑で季節に応じた野菜を育て収穫し、給食に入れる。		1	「おなかすいた」「早く食べたい」など給食を楽しみにするようになった。				
	1	健康な体づくりについて保護者と会話する機会を意識して持つようにする。		1	登園時に笑顔で(保育者や友達に)挨拶するようになった。				
	1	基本的な生活習慣が身につくよう発達段階に合わせ、自分なりに援助方法を工夫する。		1	(満3歳児以下) スプーンの扱いやズボンの上げ下ろしなどできるようになりつつあることは、自分でしようとする姿が見られるようになった。 (年少組以上) 自分たちがあそびに必要なものを自分たちで準備したり片づけたりするようになった。				
② 戸外遊びを 通じた体づく りの	4	園児たちの体の発達を学び、遊びの中で成長を促す援助や言葉かけを行う。	2.7	4	園児が体を動かして遊ぶことを楽しみ、新しい遊びに挑戦する姿も見られるようになった。	3.1	○前年度より戸外遊びが増え、○○して遊びたいと目的をもち、リレーやドッジボール・縄跳びは年長組の姿を見て「やってみたい！」と他学年でも取り組む姿が見られた。 ○学年やクラスによっては固定遊具(36の動作を取り入れたもの)で遊ぶことが多い様子も見られた。 ○戸外で遊ぶことに消極的な園児もいたが、園で友達と遊ぶことの楽しさを感じるようになった。 ○戸外遊びはどのクラスも増えたように思うが園児たちの取り組みを受け止め、遊び方を工夫すると園児は多様な動きや遊び方を楽しみ、発達を促すのではないかと思うこともあった。(それぞれのアイデアや工夫はあまり感じられなかったため、援助の場面では改善が必要である。)	○園児が自ら体を喜んで動かす姿が見られるようになり、新しい遊びに挑戦する姿も少しずつ出てきているのは、今年度重点目標として取り組んだ成果だと考える。こうした園児たちの育ちを次年度に活かし、自分の体を自分でコントロールできる体づくりを行いたい。	B
	3	体を動かす遊びを保育者も遊びの一員として一緒に行う。		3	遊具がなくても体を動かして遊ぶことを楽しむようになった。				
	2	体を動かして遊びたいような運動的な遊具を園児の目につくところに出して置いたり遊びに誘ったりする。		2	園庭の固定遊具を使って体を動かして遊ぶようになった。				
	1	1日一回園庭の固定遊具を使って戸外あそびを行う。		1	保育者が誘うと外に出るようになった。				

③ 園児達の体の実態動き把握や	4	(環境から刺激を受けて)園児が体を動かして遊ぶ様子を捉え、保育を振り返ってみる。	4	保育を振り返り、環境の構成や援助と関連付けて考えるようになった。	2.6	<満3歳児以下> ○未満児は指先を使った手作り玩具や牛乳パックを使用して上がり降りができるような体の発達を促す取り組みができたと思う。 <年少組以上> ○園児がすすんで体を動かして遊ぶような環境づくりや、バランス感覚を養うことを意識しながら取り入れていくことができた。	○体の動きを促す遊びを生み出す環境の構成を意識はできたが、実際に園児達の遊びや興味に応じた運動遊びを取り入れる保育には今一つの感があつたことが、取組指標と成果についての評価からわかる。 ○子ども達が少しずつ戸外遊びにチャレンジする育ちが見られるので、保育教諭一人一人が戸外遊びの楽しさや心地よさを実感し、体を動かす遊びを園児達と一緒に楽しんだり、モデル提示したりできるような教材研究など実践的な園内研修を計画していきたい。 ○時間調整が難しい中ではあるが、幼稚園部と保育園部が園児の発達について共に学ぶ機会をつくる。またフリースタッフの先生方との情報交換や連携するために共に学ぶ機会も合わせてもちたい。	B
	3	園児がすすんで体を動かして遊ぶような環境づくりを行う。	3	個々に合わせ、保育活動の中に体の動作に関わる運動遊びを取り入れるようになった。				
	2	園児のあそびの様子や体の動き等を記録する。	2	発達を促す遊びを考えるようになった。				
	1	遊びの様子を見る。	1	園児と共に体を動かして保育をするようになった。				

<重点目標：園児の安全な生活の保障>

登降園時の安全管理と職員連携	1	園児の出欠確認がとれない時は他の職員(バス担当・事務職員など)に尋ねたり、保護者に連絡をしたりして所在を確実にする。	1	園児や保護者と安全に関する話をよく聞いたり話したりするようになった。	3.2	○以前よりバス送迎については園児の置き去りなどないように徹底して取り組んでいる。今年度は特に園バスの置き去り事件もあつたため、さらに安全マニュアルの見直しを行ったり、県からの指導を取り入れた。また、園児が安全に園舎から各クラスに入るまでの見守り、バスを降りてからの人数確認・連絡なしでバスに乗ってこなかった園児・欠席連絡のないご家庭にも連絡し、園児の所在を明確にするように徹底して行っている。 ○保護者直接送迎の園児についても登降園時に必ず門に立ち見守りと廊下入り口から保育室に行くまでの見守り、欠席連絡がないご家庭へ連絡をして園児の所在を把握するなど担任・担当の責務を明確化し徹底した。 ○場所を移動する時は必ず人数確認を行いクラス全員いるか把握した。	○今年度は事件・事故のニュースなどが多く、特に園で不審者・不審物対応が必要なメールが北九州市に届くなど徹底した安全確認が必要であつた。そのことを機に話し合いをもち安全マニュアルの見直し・改善、担任・担当の責務を明確にし、徹底できたことは大きな成果である。引き続き強化していきたい。	A
	1	登降園時は担当以外も園児や保護者に声掛けをしながら全員で見守りし、安全に送り出しができるように対応をする。	1	教職員が、進んで園児や保護者の見守りをし、送迎時の声掛けを行うようになってきた。				
	1	園児の出席状況や登降園の状況などを把握したうえで毎日チェックシートに記入する。	1	担任・担当の責務が明確になり、教職員間の連携も持てるようになった				
	1	登降園時の安全について安全マニュアルの内容を教職員で共通理解する。	1	園児たちに安全について例をあげて話を日常保育の中でするようになった。				

4、学校関係者評価委員による評価及び意見

○基本姿勢、安全管理が徹底されている。園児の生活習慣を見直し改善するための取り組み、登降園時の安全管理と職員連携がうまくできており、高い評価だった。この評価を維持・発展させるためにも「手作りポスター」や「野菜の栽培」を継続・発展させてほしい。

○毎月の学年だよりから、感染対策に気が抜けない時期にも園生活を通して子どもたちの体の成長発達を促す取り組みがなされ、成長に応じたカリキュラムに配慮されている様子を拝見することができた。それと共にこころの発達も育まれているようである。惜しむところは園児の体の動きや発達の実態・把握が今年の中では評価結果が一番低かつたので、実際に園児たちの遊びや興味に応じた運動遊びをどう保育に取り入れるかが来年度の課題となるのではないだろうか。

○先生方の日々の保育に頭が下がる思いである。これからも「地域の宝 子どもたち」の健やかな育ちのために、地域も手を携えていきたい。

5、まとめ

○今年度は事件・事故のニュースなどが多く、特に園で不審者・不審物対応が必要なメールが北九州市に届くなど徹底した安全確認が必要であつた。守衛さんの巡回や学園の先生方の見守りなど学園との連携は保護者にとっても安心できたと思う。また教職員間でも話し合いをもち安全マニュアルの見直し・改善、担任・担当の責務を明確にし、徹底できたことは大きな成果である。

○ミドルリーダーの先生方が積極的に戸外で保育することによりそのことが良きモデルとなつて、保育教諭一人一人が戸外遊びの楽しさや心地よさを実感すると共に子ども達が戸外遊びや運動遊びにチャレンジする育ちが見られた。更に改善できるように体を動かす遊びを園児達と一緒に楽しんだり、モデル提示したりできるような教材研究など実践的な園内研修を計画していきたい。

○令和5年度から北九州市立の幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校では、学校・園と保護者の連絡ツールとしてオンラインで行うようになる。ICT化が進む中、業務効率を図ると共に園への理解を図る一つの有効な方法と思われるが、本園ではコロナ禍で過ごした3年間がある意味、対話の大切さや喜びを感じさせてくれ、今年度も保護者との信頼関係を築くには普段から何気ない会話が大切であることを実感できたので、今後も保護者との対話を大切にして、信頼関係を作っていきたい。園児・保護者・地域の方たちにとって本園が、学校関係者評価委員の方が言われた「ほっとできる気持ち・ほっとできる場所」であり続けたい。